



菅波 茂

8月15日午後6時40分(日本時間16日午前8時40分)ごろ、ペルーの首都リマから南約200キロに位置するイカ州を中心にマグニチュード8の地震が襲った。死者519人、負傷者1366人、倒壊家屋約6万件の被害が発生した。

8月18日に日本から医師2人と調整員1人の緊急医療支援チームを派遣。ペルー支部から医師1人、ポリピア支部から医師1人と看護師1人が合流して、3カ国から構成されたAMDA多国籍医師団として巡回診療を実施した。診療した患者数は548人、呼吸器疾患や筋・骨格筋疾患、皮膚疾患が多かった。季節は日本と反対の冬で、寒く、道路が寸断し、レンガ造りの古い建物はほとんど崩れ、がれ

きが散乱。余震が続く、ほこりやちりが漂う中で被災者はテントで生活しながらも、炊き出しなどで助け合っていた。私は昨年、ポリピアのサンタクルス市で開催したAMDAアメリカンリーグ国際会議に参加した時に、ペルーを訪ねたことがある。ペルーは貧富の差が激しい。緑に富んだ首都リマを郊外に一步出れば、草木一本ない砂山のような山々の裾野に、マッチ箱のような貧しい集落が延々と続いている。壮大な光景だった。地方から首都リマにたどりついた人たちのスラム街である。30万人の住人がいた。そこには水道はない。給水車から水を買っている。電気があれば「御の字」である。今回の被災地では貧しい人たちも家屋が崩壊し、生活維持が困難となった。略奪行為が発生し、治安も悪化した。AMDA多国籍医師団が巡回診療し

AMDAペルー沖地震緊急医療支援活動

た村は、「安全である」と。の情報によって選ばれた。被災地に関するペルー支部の情報収集能力の賜物である。しかし種々の困難がある。

日本政府による国際緊急援助隊医療チームの派遣は、ペルー政府によってやんわりと拒否された。「必要があればお願いします」と。ペルー大統領の支持率は低迷している。フジモリ元大統領の動向に神経質になっている。日本から派遣される国際緊急援助隊医療チームが、国民にフジモリ元大統領のイメージアップになると警戒したのである。先般の参議院選挙でもフジモリ元大統領が国民新党から出馬して、ペルー国内で話題になったばかりである。AMDAはペルーにも支部がある多国籍医師団を派遣した。複雑な政治情勢に左右されることなく、災害被災者救援活動などの人道支援活動ができることが証明された。「救える命があればどこへでも」をスローガンに、AMDA多国籍医師団は派遣される。06年2月のフィリピン・レイテ島地滑り災害に対する緊急医療支援活動では、外国人医師免許での医療活動が制限されていた。今年のパキスタン・カラチでのパキスタン南部サイクロン緊急支援活動では、首都イスラマバードでのテロ騒ぎによる治安強化のために、被災地での直接活動が難しかった。善意を活かすにはそれなりのシステムが必要である。核心はローカルイニシアチブである。ローカルイニシアチブとは一現地の事情を一番よく知っているものが一番良い答えを持っているのである。AMDAの29カ国の支部のネットワークを、新たな支部や姉妹団体の参加によって強化する動きを更に加速させたい。(AMDA代表)